

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 スポーツ頭部外傷に起因する脳脊髄液漏出症における脳槽シンチグラフィー
評価方法の検討』

研究機関名 東邦大学医療センター大橋病院

研究責任者 脳神経外科 職位・氏名 助教・平元 侑

【試料・情報の利用目的】

東邦大学医療センター大橋病院脳神経外科では、スポーツ頭部外傷に起因する脳脊髄液漏出症が疑われ、診断目的で脳槽シンチグラフィー検査を行い、ブラッドパッチが施行された患者さんを対象とし、脳槽シンチグラフィー検査に使用されたアイソトープ(放射性同位元素)残存率とブラッドパッチの治療効果との相関性を評価する研究を計画しました。患者さんの診療録(カルテ)より取得した情報を本研究に利用します。

この研究で得られる成果は、脳脊髄液漏出症患者さんへのより良い治療方針のご提案につながります。

【他機関への提供】

他機関への提供は行いません。

【研究に用いられる試料・情報】

情報： 患者基本情報(年齢、性別、身長、体重)、受傷状況(競技、ポジション、脳振盪の既往)、検査画像(MRI、MR ミエログラフィー、脳槽シンチグラフィー)、SCAT*自覚症状スコア、ブラッドパッチ施行日、再治療の有無 等

* SCAT (Sport Concussion Assessment Tool): 医療従事者によって脳振盪を評価するために使用される標準化されたツール

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など、個人を特定できる情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できる情報を報告・公開することはありません。

【試料・情報の利用または提供を開始する予定日】

2025年2月より利用を開始します。

【試料・情報の取得方法】

対象者： 2020年1月～2025年6月までに東邦大学医療センター大橋病院脳神経外科において、スポーツ頭部外傷に起因する脳脊髄液漏出症が疑われ、診断目的で脳槽シンチグラフィー検査を行い、ブラッドパッチを受けた、あるいは今後受け、観察期間3か月を終了された方、おおよそ100名。

方法： 診療録(カルテ)から抽出したデータを解析し、脳槽シンチグラフィー施行時のアイソトープ残存率とブラッドパッチの治療効果との相関性を検討します。

【研究組織】

代表施設名： 東邦大学医療センター大橋病院 研究代表者： 平元 侑 役職： 助教

【試料・情報の管理について責任を有する者の名称】

東邦大学医療センター大橋病院 脳神経外科 助教 平元 侑

本研究に関してご質問のある方、試料や情報を研究に利用することを承諾されない方は、2025年11月30日までに下記へご連絡下さい。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。また、患者さんご本人はもちろん、ご家族等、代諾者の方からのお問い合わせもお受けいたします。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大橋病院 脳神経外科

職位・氏名 助教・平元 侑

電話 03-3468-1251 内線 7967